

千葉市美術館「生誕135年 石井林響展—千葉に出づる風雲児」を開催します ～千葉に生まれた日本画家の個展、市美術館単独開催～

千葉市美術館では、企画展「生誕135年 ^{いしりんきょう}石井林響展—千葉に出づる風雲児」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展は、千葉土気で生まれ、^{おおあみやざく}大網宮谷で没した千葉ゆかりの日本画家石井林響（1884—1930）が追い求めた理想の世界を探る、28年ぶりの回顧展です。

開催にあたりまして、11月22日（木）14：00から記者の皆さまへの披露説明会、同日16：00からオープングレセプションを実施しますので、ぜひ取材にお越しく下さい。

- 1 会期 平成30年11月23日（金・祝）～平成31年1月14日（月・祝）
※休館日 12月3日（月）、12月29日（土）～1月3日（木）
- 2 会場 千葉市美術館（中央区中央3-10-8）
- 3 主催 千葉市美術館

4 ポイント ◆「東に林響あり」と称された石井林響の決定的展覧会！

今でこそ知る人ぞ知る石井林響ですが、明治末から大正期にかけて画壇を賑わせた日本画家でした。16歳で^{しもむらかんざん}上京後下村観山推薦のもと、^{はしもとがほう}橋本雅邦に師事し、その才筆は「西に^{かんせつ}関雪（橋本関雪）あり、東に林響あり」と称されるほど。本展では28年ぶりに、他作家の作品約10点を含む約130点で、知られざる石井林響の世界を回顧します。

◆房総を愛した画家の様々な画風を楽しむ

初期の林響は当時流行していた「歴史画」を緻密に、物語性豊かに描き称賛を浴びました。そこから、^{よこやまたいかん}横山大観や^{いまむらしこう}今村紫紅の影響を感じさせる作品が登場、田園風景や牧歌的なテーマを多く描き、鮮やかな色を用いてカラリストとも呼ばれました。その後は徐々に画壇から距離をおくようになり、南画や文人画の世界へ没頭。素朴ながら味わい深い、軽妙な作品を生み出しました。様々な画風を変えた林響ですが、郷土愛や「理想の田園」としての房総は生涯揺らぐことはありませんでした。

◆目利き林響が収集した重要文化財や優品も紹介

古画を愛し、同時代の画家たちの中でも随一の目利きで知られた林響。大正期における南画、文人画の再発見の立役者となりました。自ら古画を収集し、その中でも中国・清時代の画家・^{せきとう}石濤の^{こうざんはつしようがきつ}《黄山八勝画冊》は林響が大正末に苦勞して手に入れ、一時期所持していたもの。後に林響の手から離れ、住友家が購入した逸品（重要文化財）を、本展では特別に展示します。

- 5 観覧料 一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円)
☆おなまえ割引…姓が「石井」の方、または名前に「天」「風」「林」「響」がつく方は、観覧料を2割引いたします。(姓名のわかるものを受付でご提示ください)
※小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。
※()内は前売券、団体20人以上の方、市内在住65歳以上の方の料金。
※前売券は、ローソンチケット、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて11月22日まで販売。

- 6 関連イベント 展覧会に関連して、講演会やワークショップなどを開催。

「生誕135年 石井林響展—千葉に出づる風雲児」披露説明会 開催概要

日時 11月22日(木) 14:00から
場所 千葉市美術館 8階展示室
内容 展示作品をご覧いただき、主な展示作品の見所などを担当学芸員からご説明いたします。

「生誕135年 石井林響展—千葉に出づる風雲児」オープニングレセプション

日時 11月22日(木) 16:00から
場所 千葉市美術館 11階講堂
内容 来賓の方々とともに展覧会の開催を記念するオープニングレセプションを開催します。

<本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 松尾知子
広報担当 磯野 愛
〒260-8733 中央区中央3-10-8
電話 043-221-2311
FAX 043-221-2316
E-Mail isono@ccma-net.jp